令和８年度中学生議会　主な日程

６月21日〔日〕　第１回事前勉強会
・市議会の仕組みについて
・鉾田市の財政・事業について

７月12日〔日〕　第２回事前勉強会
・一般質問について

７月25日〔土〕　第３回事前勉強会
・再質問の想定について

８月10日〔月〕　本会議
・会議録署名人の指名
・会期の決定
・諸般の報告
・一般質問
・議議案第１号　質疑、討論、採決

８月23日〔日〕　振り返り

概　要

令和８年鉾田市中学生議会は、生徒が地域や社会の課題に関心を持ち、議会制度や行政の仕組みへの理解を深めるとともに、主権者教育として自ら考え、多様な意見を尊重しながら、主体的に社会参画する態度を育成することを目的として実施しました。

市内の中学校（旭中学校、鉾田北中学校、鉾田南中学校、大洋中学校、鉾田第一高等学校附属中学校）の生徒１８名が参加し、一般質問や議議案の審議を行いました。

一般質問では、１３名の中学生議員が「中学生海外派遣事業について」、「再生可能エネルギーについて」、「下水道の整備予定について」など身近な問題から、社会的な課題、まちづくりなどさまざまな視点からの質問を行いました。

また、議議案では、豊かな田園風景の広がる誇りある故郷、鉾田市を守り、次の世代へつないでいくために、鉾田市の中学生が目指すべき中学生像を「鉾田市ユニバーサルチルドレン宣言として、提案しました。

議員番号	氏　名	中学校名	学年
1	柏 結愛	旭中学校	2年
2	菊池 颯斗	旭中学校	2年
3	酒井 陽翔	旭中学校	2年
4	山口 愛依	旭中学校	2年
5	安達 賢太	鉾田北中学校	2年
6	冨田 翔空	鉾田北中学校	2年
7	烟田 啓介	鉾田北中学校	3年
8	髙橋 大生	鉾田北中学校	3年
9	石上 睦実	鉾田南中学校	2年
10	大原 浩聖	鉾田南中学校	2年
11	山口 実千花	鉾田南中学校	2年
12	小沼 祐貴	鉾田南中学校	3年
13	田中 陽彩	鉾田南中学校	3年
14	宮本 栞那	鉾田南中学校	3年
15	菅谷 芽加	大洋中学校	2年
16	中根 帆菜	大洋中学校	2年
17	早坂 一華	大洋中学校	2年
18	青山 龍生	鉾田一高附属中学校	3年

ここが聞きたい！！

一般質問

一般質問とは？
　議員が市政全般の現状や方針などを問うものです。

議員名		質問事項
早坂　一華 （大洋中学校） P3	1	**SNS を活用した、市の魅力 PR について**
	2	公共交通機関の減少に伴う、ほこまる号の休日運行の考えについて
田中　陽彩 （鉾田南中学校） P3	1	**海をきれいに保ち観光客を増やすための取り組みと今後の施策について**
	2	海の魅力発信のためのイベントや体験活動のさらなる充実について
髙橋　大生 （鉾田北中学校） P4	1	**中学生海外派遣事業の中止理由と、国際的な取り組みについて**
	2	不法滞在外国人の対策について
冨田　翔空 （鉾田北中学校） P4	1	学生の運動量低下への対策について
	2	**地域クラブの指導者、活動場所について**
大原　浩聖 （鉾田南中学校） P5	1	**生活排水等の不適切な処理、農地への過剰施肥への指導について**
	2	二酸化炭素排出量実質ゼロに向けた取り組みについて
山口　実千花 （鉾田南中学校） P5	1	ふれあい道路と県道２号線丁字路の交通安全対策について
	2	**市 HP 以外での避難場所の周知について**
柏　結愛 （旭中学校） P6	1	**市内の公共ゴミ箱の設置について**
石上　睦実 （鉾田南中学校） P6	1	首都圏の消費者に向けた鉾田市産農産物の PR について
中根　帆菜 （大洋中学校） P7	1	学校用タブレットのフィルタリングについて
	2	**中学校におけるスクールバスの利用について**
青山　龍生 （鉾田一高附属中） P7	1	省エネエアコン買換促進補助金の利用実績と効果について
	2	**今後の下水度整備の具体的な予定と目標とする普及率について**
山口　愛依 （旭中学校） P8	1	**ひとり親家庭への支援と周知について**
	2	幼稚園の今後の方針と土地利用について
宮本　栞那 （鉾田南中学校） P8	1	鉾田市の祭り会場における安全対策の強化について
	2	**誰もが安全に楽しめるごみのないきれいな祭りづくりに向けた支援について**
小沼　祐貴 （鉾田南中学校） P9	1	**旭地区の閉校小学校跡地を利用した計画について**

SNS を活用した、市の魅力 PR について



早坂　一華（大洋中学校）

問　**市の魅力 PR について SNS の活用とメリット・デメリットについてお伺いします。**

答　【市長】市では、イベントで農産物や観光資源などを PR する他、テレビや新聞などのメディアへのプレスリリース、動画の作成や HP、SNS、YouTube などを使い市の魅力を発信しております。SNS の活用は、迅速な情報伝達や多くの人に効果的に鉾田の魅力を伝えるメリットがあります。

一方で、根拠のない情報の発信や、一度拡散した情報の削除が困難という課題もあるため、的確な情報を伝えるため、慎重に対応することも大変重要であると考えております。SNS は上手に活用すれば、スマートフォンなどを通じ、多くの方に鉾田市の魅力を発信することができますので、今後も有効に利用していきたいと考えております。

問　**市の SNS はイベント後の投稿が多く、タイミングが遅いように感じますがいかがですか。**

答　【副市長】公式 HP の他、Facebook、LINE、X、インスタグラム等の SNS があります。ご提案いただいた通り、これらを効果的に活用できれば、さらに広く PR することができると考えております。

また、イベント当日会場にいらした皆さんによってリアルタイムに投稿いただくことで、より一層の PR 効果が期待できると考えております。

海をきれいに保ち観光客を増やすための取り組みと今後の施策について



田中　陽彩（鉾田南中学校）

問　**鉾田市の海を綺麗に保ちながら、観光客を増やすために、現在どのような取り組みを行い、今後どのような対策を考えていますか。**

答　【環境経済部長】市において海は大切な観光資源の一つで海が綺麗であることは、観光資源として活用する上で重要な要素と考えています。

しかしながら議員がおっしゃる通り、全国的に海岸に面した自治体では漂着ゴミが問題となっており、鉾田市においても例外ではないと認識しています。そのため、例年であれば鉾田市でも海水浴場を開設する前に海岸の清掃を実施するなど、海岸を綺麗にして、来訪者を迎えてきました。

また、来訪者を増やすための取り組みとして、各メディアによる発信紹介の他、サーフィン大会や釣り大会、などのイベントも多く開催されているところでございます。

さらに、海で安全に遊ぶための体験事業としまして、ライフセーバーを講師とした海の安全教室なども実施したところでございます。

提言　**イベントなどを開催する際には、事前の告知に力を入れていただきたいと思います。**

特に、私達中学生もインスタグラムを見ることが多いため、インスタグラムなどの SNS を活用した情報発信に力を入れていただきたいと思います。

中学生海外派遣事業の中止理由と国際的な取り組みについて



髙橋　大生（鉾田北中学校）

問　**中学生海外派遣事業の中止理由と子どもを対象とした国際的な取り組みの実施について伺います。**

答　【教育長】中学生海外派遣事業を中止した理由ですが、参加した中学生にとっては、現地でしか経験できない非常に学びのある有意義なものだったと考えております。

しかし、16名というごく少数の生徒しか参加できない事業でした。そのため、多様化する国際社会において、異文化に触れる取り組みは、今後も重要であることから、多くの中学生が参加できるよう、福島県にある国内施設を利用した国際文化体験事業としました。

本年度は30名の参加者で計画しています。今後は状況により人数を増やしたいと考えておりますので、今後とも国際的な取り組みや活動について、いろんな活動を工夫しながら取り組みたいと思います。

問　**国内施設を利用した取り組みでは、実際の外国での生活等のリアルな日常を体験できないと思いますので、ぜひ海外派遣事業を復活していただきたいと思います。**

答　【教育長】髙橋議員のご提言をもとに、今後とも工夫を凝らした国際体験事業ができるようにしたいと思いますので財政当局等、様々な部局と相談しながら進めてまいります。

地域クラブの指導者、活動場所について



冨田　翔空（鉾田北中学校）

問　**地域クラブでは指導者が不足しており、活動場所も少ないと感じています。鉾田市では対策を行っているのでしょうか。**

答　【教育長】鉾田市地域クラブでは、指導者の募集を市の広報誌やHPに掲載する他、市スポーツ協会や、市スポーツ少年団、教職員に協力を依頼するなど、指導者の確保に努めているところです。

また、活動場所にいては、生徒の参加状況を踏まえ、より多くの生徒が参加できるように種目ごとに指導者と協議し、会場をローテーションしながら複数会場で行うなど対策をしています。

今後も、生徒がスポーツ、文化活動に親しむ機会を確保できるように環境を整備してまいります。

問　**地域クラブの活動場所への保護者の送迎ができないため、地域クラブに参加できない人が周りにいます。送迎のためにバスを使用することはできないのでしょaaうか。**

答　【教育長】地域クラブの送迎問題については、議員ご指摘の通り、以前からお話をいただいております。そのため、昨年の鉾田市地域クラブ推進会議で協議をしまして、送迎バスの運行を検討しましたが、市全体で年間最低２０００万円かかるという試算でした。結果として送迎バスを運行するには、参加者の会費を値上げせざるを得ないということから、送迎バスの運行は断念して、保護者送迎をお願いしたところです。

地域クラブにつきましては引き続き移動手段を含めて、生徒の皆さんが参加しやすい環境作りを模索したいと思います。

生活排水等の不適切な処理、農地への過剰施肥への指導について



大原　浩聖（鉾田南中学校）

問　**生活排水や家畜排せつ物の不適切な処理、農地への過剰施肥について具体的にどのような指導を行っているのか伺います。**

答　【環境経済部長】生活排水については、電話や窓口で相談を受け、発生場所や被害状況を確認します。

その後、担当課が現場を確認し、臭気などの発生源の特定を行い、原因に応じて関係課等と連携しながら適切な指導を行います。

次に家畜排せつ物の不適切な処理については、畜産業者に対し、３年に１度、県畜産部局と合同でパトロールを実施しています。牛や豚などの排泄物の適切な処理や、保管が行われているかを基準に則り確認しています。

苦情や通報を受けた際は、速やかに現地確認を行い、原因を特定し管理者や使用者に対して、適切な対応をするように指導しています。

農地への過剰施肥については、化学肥料などの過剰施肥は、環境負荷の原因となることから、土壌診断に基づいて適正な施肥を推進しています。県と連携を図り、県において無料で土壌診断や助言を行うとともに、今年は農産物の連作障害を予防するため、環境に配慮した土壌消毒を実施した方に対し、経費の一部を助成するなど、環境負荷低減政策を推進してきました。

問　**生活排水や家畜排せつ物などの問題が解決しているか、苦情件数の推移と改善件数を教えてください。**

答　【環境経済部長】生活排水に関する苦情指導件数は令和６年度は７件、令和７年度は５件でした。浄化槽からの排水の流出が主な内容であり、いずれも指導により改善が図られました。

次に家畜排せつ物の苦情件数ですが、令和７年度、14件であり、これまでに定期的な巡回指導を行ってきたこともあり、過去に比べ、年々に減少している状況です。

市 HP 以外での避難場所の周知について



山口　実千花（鉾田南中学校）

問　**HP 以外で避難所避難場所を知らせる方法はどのようなことを考えているでしょうか。**

答　【総務部長】市の HP だけではネット環境のない方や高齢者の方など、全ての市民の皆様へ十分に情報が届かない場合があると認識をしています。

市では HP 以外でも市広報誌、暮らしのガイドブックなどで避難所の情報をお知らせしています。

また、大雨で洪水や土砂災害のおそれがある場所など、危険な区域や避難所の場所を地図にしたハザードマップを作成しています。ハザードマップは回覧板での配布の配布の他、市役所及び旭・大洋の総合支所の窓口に、配布用を備えています。

さらに台風などの影響により、避難所を開設する場合は、防災無線などで案内し、より多くの方に情報を届けるよう努めています。その他、毎年実施する防災訓練などで直接市民の皆様に、避難所の場所や避難の方法を説明する機会も設けています。市民一人一人に避難所などの情報を知っていただくことが重要であると考えています。今回ご提案をいただいた避難所を知ってもらう機会を設けることは災害から身を守るという点で、大切な視点ですので、中学生の皆さんとともに、地域の防災について考えてまいりたいと思います。

提言　**より避難所を知ってもらうために公民館や図書館にもハザードマップを置いていただきたいと思います。**

また、学校でも配布や掲示をすることで小学生や中学生も目に触れる機会が増えたためお願いしたいと思います。

そして、避難所には案内看板がありますが、人々が日常的に行くゴミ集積所やスーパーなどの場所に近くの避難所がわかる看板を設置していただきたいと思います。

市内のゴミ箱の設置について



柏　結愛（旭中学校）

問　**よりよいまちづくりの一環として、市内に公共のゴミ箱を増やすべきだと考えていますが、今後ゴミ箱を増やすなどの計画はありますか。**

答【環境経済部長】現在、鉾田市としては公共のゴミ箱を新たに設置し、増設する計画はございません。

その理由としては、テロ対策や防犯上の理由に加えて、ゴミ箱を設置することで、家庭ゴミの持ち込みやゴミの溢れだしにより地域の衛生環境が悪化するという課題があることから、ゴミ箱を撤去削減する方向となっています。自分のゴミは持ち帰るというマナーの定着、ボランティア活動による清掃支援を基本としています。

一方で、道路や海岸等へのポイ捨てについては、未然に防ぐ取り組みが重要と考えます。雑草が生い茂って見通しが悪い場所は、ゴミが捨てられやすくなります。道路の除草を適切に進めるなどポイ捨てをされにくい環境作りが大切だと考えますので、市役所内の関係部署や、県等と連携し取り組みたいと考えています。

綺麗なまちづくりに関しましては、市役所をはじめとする行政だけの取り組みではなく、市民の皆様の一人一人の協力が不可欠だと感じています。

問　**市としてきれいなまちづくりに関してどのような取り組みを行っていますか。**

答【環境経済部長】市では自分たちの手でまちを綺麗にしようと活動してくださる市民の皆様へボランティア袋の配布などの支援に力を入れて取り組んでいます。また、ゴミ出しが困難な高齢者等を対象にゴミ出し支援事業で環境美化に取り組むとともにゴミの不法投棄対策として定期的なパトロールを行っています。ポイ捨てを防ぐための啓発看板を、希望される方や団体へ配布しています。

市役所においてはクリーン作戦にあわせて職員による清掃活動なども行っています。

首都圏の消費者に向けた鉾田市産農産物の PR について



石上　睦実（鉾田南中学校）

問　**首都圏の消費者に向け鉾田市が農産物の一大産地であることを PR しているとありますが、どのような PR をしていますか。**

答【市長】令和７年度の実績では、東京都や神奈川県などの大型商業施設において、各農産物の旬の時期に合わせ、鉾田市産のメロンやイチゴを使用した、期間限定メニューを飲食店が提供する鉾田フェアを開催しています。

また、同じく関東近辺の商業施設などで行われる、各種イベントにも出展等をして農産物を広く PR しました。

本年は、鉾田市には JA ほこた JA 茨城旭村の組合長に、市と農産物を直接扱う機関で一緒に PR をしましょうということを申し入れました。

この間、産業経済部長が、足を運んで協議を行い、これからはしっかり団体と市が一緒になり鉾田市を盛り上げましょうという話もしていました。

次に効果ですが、出店での PR や動画等の配信により多くの方へ農産物の認知度向上と消費の拡大、そしてふるさと納税の寄附金拡大にも大きな効果がありました。県外だけでなく、鉾田市内にも周知を深め、頑張っている生産者を支援してくるよう PR に努めたいと考えています。

問　**イベントに来られない遠方の方や若い世代へは SNS での PR が重要だと思いますがどのような発信をしていますか。**

答【副市長】イベントに関する情報発信については、市のシティプロモーション LINE による事前告知を実施しています。

また、イベント開催時には、PRTIMES でのプレスリリース配信や関連する商業施設の HP、SNS を活用し、広域的な PR を行いました。さらに、各種イベントへ出店したときにも、主催者の HP や SNS を通じて、そのイベントに関心のあるターゲット層に合わせたきめ細やかな情報発信に努めています。

中学校におけるスクールバスの利用について



中根　帆菜（大洋中学校）

問　**夏の熱中症や冬は陽が落ちるのが早く、事故の危険性もあるため中学生もスクールバスを利用することはできないでしょうか。**

答【教育部長】小学生のスクールバスについては、鉾田市公立学校施設再編計画に基づき、統廃合した小学校への通学用として、スクールバス運行に関する条例により運行しています。

この条例は、小学生を対象にしているもので、中学生は対象となっていません。熱中症警戒アラートが発令される際の登下校については、体調に十分注意をするように指導をしているところです。

また、部活動については、各学校において、日没時間を考慮し、終了時間を調整しています。

今後も生徒や保護者の意見を聞きながら、中学生が安全に通って登下校できるように努めてまいります。

提言　**年々子どもの数が減少しているので、半分ずつスクールバスを利用することや、小中学生が一緒に旧小学校に集まりバスを利用することはいかがでしょうか。**

答【教育部長】学校跡地については、鉾田市学校跡地利活用計画に基づき、利活用事業者を公募しているため、全ての小学校の跡地をバスの乗降場所にするのは難しい状況にあります。

議員ご提案の小学生の乗降場所を集約することについては、小学校跡地のような広さが確保できないと児童生徒を待機させることが難しいため、同程度の規模を市内各所で確保することは難しいと思われます。小学校のスクールバスは、安全かつ円滑にスクールバスを運行するため、児童一人一人座席を指定しているため、旧小学校に乗降場所を集約しましても、バスの台数を減らすことは難しい状況でございます。

今後の下水道整備の具体的な予定と目標とする普及率について



青山　龍生（鉾田第一高等学校附属中学校）

問　**下水道が普及することで、住みやすいまちとなると考えます。今後の下水道の整備計画と目標とする普及率をお伺いします。**

答【上下水道部長】下水道は人口集中地域や生活環境の改善が必要な地域を整備するものでありまして、鉾田市の場合は、市役所周辺の市街地を中心に３５３．７haを下水道計画区域として整備を進めているところです。

令和７年度末時点で、中心市街地では国の事業認可を受けた２８０haの８５％を整備しまして、接続率は３３．８％となっています。

計画区域外では、合併処理浄化槽の補助を推進していきます。市全体として汚水処理人口普及率は、下水道と合併処理浄化槽などを合わせ、約８０％となっており、国の方針では全ての家庭の生活排水をできるだけ早く、処理できることが求められており、将来的にはほぼ全ての世帯で適切な汚水処理が行われる状態を目標としています。

処理能力については、将来の使用人口や使用量の増加に備えるため、下水道処理施設の長寿命化や計画的な増設を行うなどして安定した理を実現できる体制を整えていきます。

問　**下水道工事の完了予定と計画の拡大についてお伺いします。**

答【上下水道部長】下水道区域の工事の完了は令和２２年度を予定しています。

拡大の可能性については、工事費や維持管理費が非常に大きくなるため区域の変更は可能ですが、処理場やポンプ場配管、排水管の能力を超えないよう、将来の人口や水量を見込んだ上での計画的な整備となる必要があるため、現在のところ拡大の変更は予定しておりません。

下水道以外の地域では、合併処理浄化槽などの役割分担による無理のない処理能力の確保などを考えながら、市全体の生活排水処理を推進してまいります。

ひとり親家庭の支援と周知について



山口　愛依（旭中学校）

問　**鉾田市ではひとり親家庭に対してどのような支援を行っているのでしょうか。また、その制度についてどのように周知しているのでしょうか。**

答　【福祉事務所長】まず児童扶養手当を１８歳に到達してからの３月まで支給をしています。

またひとり親家庭職業訓練促進助成金事業として、看護師や介護福祉士などの資格取得の就業期間に給付金を支給し生活の安定を支援しています。資格取得後に安定した職業への就職へつながり生活の自立を支援できるものと考えています。

そのほかでは、ひとり親家庭養育費確保支援事業、養育費に関する無料弁護士相談会、母子・父子・寡婦福祉資金融資を行っています。

制度の周知については、市HPや市広報誌を活用しております。あわせて、茨城県のひとり親家庭の支援についても県の発行している「ひとり親パンフレット」を子ども家庭センターに備え付け、周知を行っています。

また、個別の案件については福祉事務所の窓口で対応しております。

提言　**市民に認知されていなかったことからHPやチラシを使いもう少し積極的にお知らせをお願いします。**

答　【福祉事務所長】周知方法につきましては、必要な方に必要な支援が届くように引き続き方法を検討していきます。

誰もが安全に楽しめるごみのないきれいな祭りづくりに向けた支援について



宮本　栞那（鉾田南中学校）

問　**子育て世代が安心して楽しめる安全対策の強化と、中学生ボランティアのごみ拾い等を生かしたゴミのないきれいな祭りづくりについてどのような支援を行う計画があるか伺います。**

答　【環境経済部長】鉾田の祭りについては歴史と伝統のあるお祭りなので、観光資源としての魅力があると考えます。

観光資源として生かすためには、ご質問の通り安全であることは第一条件と考えます。この点については、警察などの関係機関と連携し取り組んでいく必要があると考えております。

また、ゴミの問題については、一人一人のマナーやモラルが非常に大切だと思っています。

そのため中学生ボランティアの皆さんが、一生懸命ゴミ拾いなどに取り組んでいる姿は反響も大きく、他の方への見本となりますので、そういった活動を広げられますよう取り組んでいきたいと考えています。

鉾田の祭りの歴史と伝統を未来へ残していくためには市民皆さん一人一人の協力が必要不可欠と考えています。

提言　**今後の支援として、祭りの裏で活躍している中学生ボランティアをさらにPRするというのはいかがでしょうか。**

答　【環境経済部長】中学生ボランティアの皆様が一生懸命ゴミ拾いなどに取り組まれていることに対しまして、改めて敬意を表したいと思います。ありがとうございます。

ご質問の周知に関して、写真や動画などの映像の掲載については、保護者の方の許可等が事前に必要になることがありますので、今後のPR周知に関して、事前に同意を受けるなど、対応をして、検討をしていきたいと考えています。

旭地区の閉校小学校跡地を利用した計画について



小沼　祐貴（鉾田南中学校）

問　**閉校になった旭地区の４小学校を利用し、らぽっぽなめがたファーマーズヴィレッジのように商業施設や体験施設を新設する予定はあるかお伺いします。**

答【政策企画部長】学校跡地の有効活用を図るため、学校跡地利活用計画を策定し、行政による活用を検討するとともに、事業提案型一般公募により、民間事業者等による商業施設や体験施設などを含む幅広い利活用を進めています。

旭地区の学校跡地につきましては、本年３月から６月までの間、民間事業者による事業提案の公募を行いました。その結果、旧旭東小と旧旭南小の２校の提案について優良提案として決定しましたので、今後は事業者と売却に向けた手続きを進めてまいります。

旧旭西小、旧旭北小につきましても、これまで同様に事業提案型一般公募により幅広い利活用を募り、地域の発展や雇用の創出に資する事業が図られるよう、取り組みを進めてまいりたいと考えています。

問　**旧旭北小、旧旭西小は引き続き募集を行うということですが、待つだけでなくこちらから呼び込むような取組も必要かとおもいます。**

答【政策企画部長】議員ご指摘の通り、公募だけでなく呼び込む取り組みも重要だと考えています。

今回の旭地区の小学校においても公募して待つだけではなく、市内の企業等も訪問を行い、案内をさせていただきました。

県内５０１０社に学校跡地の公募案内を送付した他、市内１８社には直接訪問による営業活動を行いました。多くの事業者が参加する廃校活用の推進イベントなどにも参加して、県外事業者と学校跡地の有効活用を図るマッチングに取り組んでいます。

今後についても議員ご質問のように、地域の発展や雇用の促進に繋がる学校跡地の有効活用に向けて、公募に合わせて外部から呼び込む取り組みも積極的に行っていきたいと思います。

会議録▼
https://www.city.hokota.lg.jp/data/doc/1792021218_doc_88_0.pdf

中学生議会動画▼
https://www.city.hokota.lg.jp/page/page008181.html

（動画の公開は令和8年 10 月まで）

中学生議員の質問の全文、当日の様子は右のリンクからみれます。



議議案第1号「鉾田市ユニバーサルチルドレン宣言」

【全会一致で可決】

提案者　菅谷　芽加（大洋中学校）



私たちのまち鉾田市は、豊かな田園風景が広がる誇りある故郷です。現在、たくさんの情報の中で暮らしている私たちは、この鉾田市を守るために何ができるのでしょうか。このふるさとは私たちが守り、次の世代へつないでいく、私たちがつくっていく大切なふるさとです。そこで、私たち中学生議員は、このすばらしい鉾田市を守り、さらに次世代の子供達へつなげていくため、めざすべき中学生像を次のとおり宣言します。

第一条　人を尊重します

私たちを支えてくれる家族や友達、地域の人に感謝の心を忘れず、思いやりのある行動をとります。ともに支えあい、他人の意見を侮らず、互いの意見を大切にします。

第二条　夢や目標に向かって邁進します

興味を持ったことには、夢や目標にたどり着くまで何度でも全力で挑戦します。失敗を恐れず、夢や目標に向かって自らの可能性をどこまでも伸ばします。

第三条　地域に関心を持ちます

地域の活性化のために、自分たちで地域を支えていく意識を持ちます。また、鉾田の豊かな自然や伝統文化の価値を知り、大切にしていきます。

私たちは、これからの鉾田市を担う中学生として、この宣言に基づき行動することを誓います。

以上、が宣言文となります。これからの鉾田市を背負う中学生として本宣言を提案いたします。

賛成討論

酒井　陽翔（旭中学校）



現在、ほこたしは、人口減少と少子高齢化による地域経済の縮小に直面しています。そのような中、この宣言は、市の現実をしっかりと見つめ、私たち中学生に今何ができるか、どうあるべきかを自分たち自身で話し合った内容です。

僕は夢や目標に向かって邁進しますという第2条に強く共感しました。なぜなら、僕は夢を持つことはとても大切だと思うからです。僕には夢があり、その夢に向かって頑張っています。

夢を持つことは、生きる活力になります。だからこそ鉾田の子どもたちみんなが夢をもって支える存在になって欲しいです。中学生の若い力で誰もが安心して暮らせる温かい鉾田市をつくって行くために、僕はこの宣言に賛成いたします。

賛成討論

安達　賢太（鉾田北中学校）



第3条の地域に関心を持ちますというところに、特に教官しました。私たちが鉾田に関心を持つことで、鉾田の自然を守ったり、農業を繋いでいくことに繋がると思いました。

また、現在、鉾田市は農業の後継者不足やゴミの不法投棄などの課題に直面しています。

課題を解決するためには、私たち中学生と地域の人々が協力することが欠かせません。そして、農業が盛んな鉾田を続けていくために、議員の皆様のご賛同をお願いし、私の賛成討論といたします。

中学生議会を終えて



議長

菊池　颯斗（旭中学校）

議長という役割をやらせていただき、最初は緊張して不安でしたが、議会事務局の方のフォローもあり、安心して役割を全うすることができました。

今回の中学生議会では、自分たちで考えた「鉾田市ユニバーサルチルドレン宣言」の採択を行いました。

この宣言を守り、誇りある故郷鉾田市を次の世代につないでいきたいと思います。



副議長

畑田　啓介（鉾田北中学校）

普段の自分たちの行っている話し合いとは違い、質問者と答弁者の役割が明確に分かれており、質問を重ねる中で、議場でのやり取りの重みを感じることができました。

また、答弁をしてくださった市長はじめ執行部の皆様方は、中学生議員の私たちに対しても、いつもの市議会と同じように真剣に向き合っていただき改めて感謝します。

中学生議会の一般質問や、「鉾田市ユニバーサルチルドレン宣言」の提案を通じて、鉾田市をよくするためにはどうすべきかを考えるきっかけとなりました。

中学生議会の様子



事前勉強会①



事前勉強会②



事前勉強会③



朝の会（当日）



リハーサル（当日）



議場の様子（当日）



答弁を聞く様子（当日）



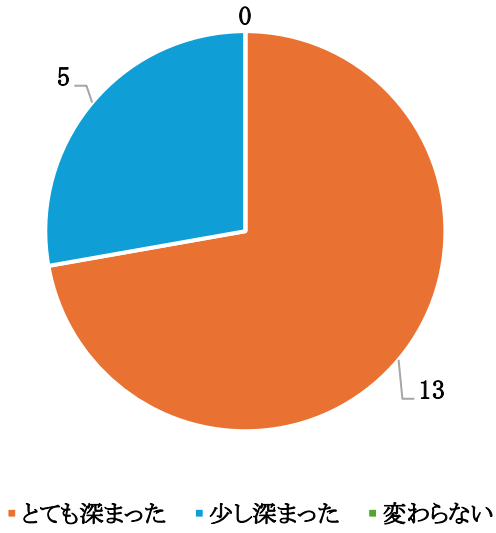
お礼の言葉



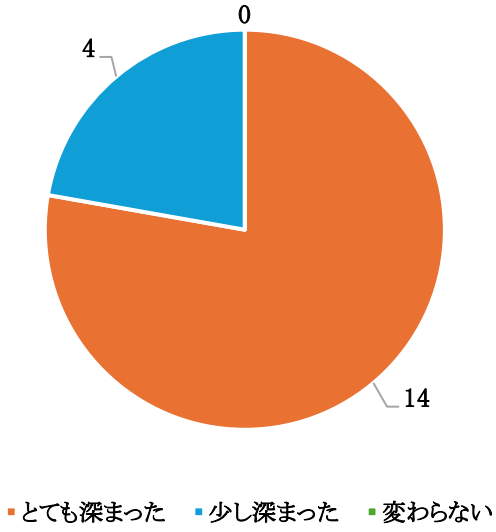
振り返り

参加者アンケート

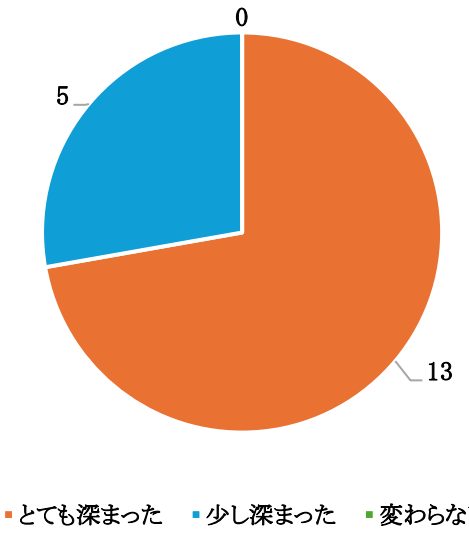
Q.1 中学生議会に参加してみて、鉾田市の行政に対する理解は深まりましたか？



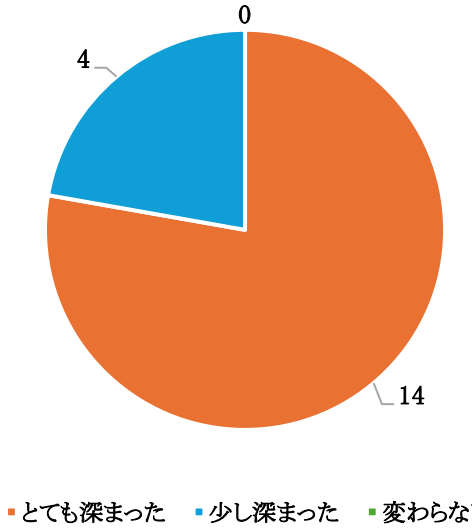
Q.2 中学生議会に参加してみて、市議会に対する理解は深まりましたか？



Q.3 中学生議会に参加してみて、地域の課題について考えるようになりましたか？



Q.4 中学生議会に参加してみて、（ボランティアや地域おこしの行事など）地域のためになにかしようという気持ちになりましたか？





鉾田市

鉾田市教育委員会